

視察研修報告書

11番 石井 清男

1. 日時 2018年8月29日 加美町(宮城県)役場

2. 研修目的 地域新電力会社
「株式会社. 里山公社」設立について

3. 出席者



宮城県
加美町

善意と資源とお金が循環するまち



かみ〜ご

町長

猪股 洋文

MAYOR OF KAMIMACHI HIROBUMI INOMATA

〒981-4292

宮城県加美郡加美町字西田三番5番地

TEL (0229) 63-3111 (代)

FAX (0229) 63-2037

URL <http://www.town.kami.miyagi.jp/>

E-mail soumu@town.kami.miyagi.jp

議長

早坂

伊佐雄

伊佐雄

加美町議会



宮城県加美町役場
協働のまちづくり推進課

課長 三浦 勝浩

〒981-4292

宮城県加美郡加美町字西田三番5番地

TEL 0229-63-3215 FAX 0229-63-2037

E-mail kyodo-matidukuri@town.kami.miyagi.jp



宮城県加美町

協働のまちづくり推進課
新エネルギー推進係

係長 小澤 智樹



〒981-4292

宮城県加美郡加美町字西田三番5番地

TEL (0229) 63-3215

FAX (0229) 63-2037

E-mail kyodo-matidukuri@town.kami.miyagi.jp

〒九八一四三九二
宮城県加美郡加美町字長檀七五二
電話 (098) 六七一五二〇

4 研修内容

加美町のビジョン

善悪と資源とお金が循環する持続可能な町

まち・ひと・しごと創生総合戦略 (イ・カ・ノ・エ)

- (イ) 移住定住の促進、(カ) 観光の振興、(ノ) 農家所得の向上
 (エ) エネルギー自給率の向上。

地域新電力とは

自治体と民間企業が共同出資で立ち上げる新電力会社
 のことで町内の太陽光発電所や日本卸電力取引所など
 から電力を調達し、町内の公共施設や民間企業などに
 電力を供給する。現在国内に30社程度存在している。

会社概要

名称	(株) かみてん 里山公社。
所在地	加美町役場
代表者	猪股 洋文 (加美町長)
資本金	900万円
持ち株	加美町 120株 (600万円) 66.7%
設立日	パシフィックパワー (株) 60株 33.3%
	平成 30年 4月 24日

設立目的

① エネルギーの地産地消 お金の地域内循環

町内の太陽光発電所等から電力を買取り、地域内の公共施設や民間企業等へ供給することで、これまで町外に流出していたエネルギーが町内で循環し、エネルギーの地産地消が図られる。又、町外に流出していた電気料(柳井町全体約49億円)の一部も町内で循環する。

② 電気料金の削減

施設ごとの電気の使い方に応じた料金設定をすることで、公共施設、民間企業の電気料金が削減される。

③ 利益のまちづくり事業への活用

(公共施設 約5%)
(民間企業 3%)

(株)カミテニ里山公社の利益は、出資者の配当せず、全てまちづくりに活用する。

今後の事業展開

- 平成30年度8月より、32の公共施設(高尾)に対し契約電力2,500kWの電力供給をスタート。
- 年間取引電力量410万kWh、年間約300万円の電気料金削減を見込む(公共施設)
- 初年度営業利益約300万円を見込む。
- 民間事業者への電力供給を増やし、売上や営業利益拡大を目指す。
- 電力供給の拡大も含め町内太陽光発電から電力を調達しエネルギーの地産地消を図る。

今後の事業展開

- ・ 高圧以外、公共施設に電力供給
- ・ 電力デマ等も活用した公共施設への省エネ化。
- ・ 再生可能エネルギーの調査および導入促進(目標4割増)

3

この施策の提案者は市長(現在1期目)とあって、運営・管理面で市の負担が少なくて(船と、パートナーの民間事業者が業務にあたる。) 利益はまちづくり事業に活用する。地域内でエネルギーもお金を循環する仕組みづくりの先駆的取り組みと想っています。

実際でも、お金をできる限り市内で循環させることの考えは持っています。この度、市内の小学校、中学校の教室にエアコンが約120~130台設置されたことにより、消費電力量も相当増えることが予想されます。又、太陽光発電事業も相当あります。本市もこの取り組みを導入する必要性を強く感じ、研修で学びました。

1.日時 2018年8月30日 道の駅 米沢

2.研修目的 第3セクター方式による道の駅^{「米沢」}の運営について

3.研修者

道の駅
上杉の城下町
米沢

MICHI NO EKI
YONEZAWA



駅長
坂川 好則
Yoshinori Sakagawa

株式会社 アクセスよねざわ
〒992-0117
山形県米沢市大字川井1039番地の1
Tel:0238-40-8450 Fax:0238-40-8451
e-mail:sakagawa@michinoeki-yonezawa.jp
URL http://michinoeki-yonezawa.jp

道の駅

米沢の概要 (平成30年4月20日オープン)

立地場所 国道 東北中央自動車 米沢・中央インターチェンジ付近

敷地面積 21,677m² 駐車場 大型30台 普通200台

建物 1850m² (鉄骨平屋) 和風建築
外観は東北自動車道 羽生ICの建物風
内装は 柱・床・天井の木材を多用した。エッジを
丸く仕上げ、
雰囲気。

店舗内装 総合案内所 (観光コンシェルジュ 教人学駐)
農産物直売所 (くだものほほめ、お土産商品が充実した)
フードコート (米沢牛、米沢ラーメン、十割そば等) 味のある
案内の全酒蔵とワイナリーの商品コーナーもある
セゾン・イングリッシュも運営で営業

総事業費 約 23億円

運営会社について

・第3セクター (株)アクセス 米販Σ社

・資本金 6,500万円 (19米次市, 1500万円)

山形県 500万円 残りは30人企業: 団体が出資

・社長 ^{おおき} 荻木氏 (米次市, 1ストラン経営者)

営業目標について, 従業員60名 (内正社員30名)

・売上15億 10億円

・来場者数, 120万人~150万人

平成30年4月20日オープン, 開業4ヶ月で売上15億6億円

達成 来場者 80万人 達成

来場者の人数把握は入口4ヶ所全てにセンサーを取り付けて
カウントしています, レジ人数に対して1.1倍の人数で可なり
レジ数は, ほぼ実数です.

戦国時代から江戸時代にかけて活躍した
米沢藩の家老、通称兼統の生涯を描いた、NHK
大河ドラマ「天地人」の舞台もまた、^{ko}（知名度の
高い土地柄であり、米沢牛や、米沢ラーメン等グルメも
全国的に有名であり、フルーツ狩り等で米訪する
観光客も多い。その為、お土産、特産品（全体の40%）
、ストラップ（全体の30%）の売り上げが多い。

陳列方法は、高速道路のサービスエリア内のレストハウスの
様に洗練され、お洒落である。又運営に当たる
菓子セクター、(株)アクセス、よねざわの社長が民間の企業家
で、(レストラン経営者)、売り場に無駄のない店舗
構成、配置もしてあります。業績目標は営業利益と
、ネットからの資料（売上げの15%）で運営し、米沢市からの
運営補助金を当てにせず、経営していることへの事として
課題は豪雪地域ならではの冬期の営業への事として、
又駅長の坂川氏は元、JR東日本の社員で、亦その支配人
を経て、駅長にスカウトされた人物です。説明の節節
に、道の駅「よねざわ」を存続して成功させたことへの
熱い思いが感じられます。

今回の視察研修を経て、来年度から第3セクター
 (株)の中へ、未来の運営の当り、本市の道の駅の中へ、と
 改めて視察すると、立地条件は良い。建物もまあまあ
 商品が少ないうえ、陳列方法は改良の余地がある。
 デパートスペースがある。大抵の日用品(間もなく100品目認定)
 の売場の確保。従業員は現在就労してゐる方を原則
 採用する予定なの？。意識の改革の必要。
 役員予定者は民間人は2人(店長、理事)なので
 民間の力を充分発揮できるか不安がある。
 レストランメニューの名物メニューがない。営業時間が短い。
 ランチタイム以降の営業は、力尽の営業(おみやげ、デパート)
 真会、食事会等、団体客の受け入れ。隣接地の
 「中へ、エコービルハウス」の利用等課題がある。
 現在道の駅「中へ」は農産物直売所。レストラン共に
 売り上げが頭打ちの状態にある。来場者数を伸ばして
 いる。来年度4月からの管理運営の交替を機に(株)の中へ
 未来のほ、これからの課題を克服し、再び売り上げ増を
 図って、来らの活性化、そして市への利益還元のために努力を
 果たすと思へる。強く感じます。
 キーポイントは、店長が守る？